

音楽科（一般）

音楽科（一般）について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

選定の観点

- 1 学習課題や目標の明示，適切なまとめや振り返り活動の設定など，生徒が基礎的・基本的な知識・技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。
- 2 習得した知識・技能を活用しながら，生徒が問題発見・解決的な学習，話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み，多面的・多角的に考察しながら，思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。
- 3 生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう，能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ，さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。
- 4 日常生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けられるよう，表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，生徒が音楽に対する感性を働かせ，音や音楽を，音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え，自己のイメージや感情，日常生活や社会，伝統や文化等と関連付けるなど，音楽的な見方・考え方を働かせた活動が適切に取り上げられていること。
- 5 表現及び鑑賞の活動が相互に関連付けられ，音色やリズム，強弱など音楽を形づくる要素を要として，生徒が音楽の多様性を理解したり，創意工夫しながら音楽を表現することを通して，音楽のよさや美しさを味わい，和楽器を含めた我が国や郷土の伝統音楽や諸外国の音楽文化に親しみ，音楽を愛好する心情，豊かな情操等を育めるよう工夫・配慮がなされていること。
- 6 生徒が人権の重要性を学び，人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ，基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう，人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。
- 7 系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え，他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく，また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。
- 8 表記，表現，写真，図表等が適切かつ正確であることに加え，ユニバーサルデザインの観点から，文字フォント，色の使用，紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また，再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

音楽科（一般）

調査研究の結果の概要

■教育出版「中学音楽 1 音楽のおくりもの」「中学音楽 2・3 上 音楽のおくりもの」

「中学音楽 2・3 下 音楽のおくりもの」

巻頭の「学びのユニット」の見開きページに、題材ごとの学習のねらいや、学習する曲や活動、学習を生かして比べる曲、学びを深めるための曲や活動、学びの手がかりとなるヒントをまとめて掲載し、生徒が題材ごとの学習の流れを一目で理解できるよう工夫されている。また、各題材のページにも「学習目標」や音楽を形づくっている要素である〔共通事項〕を示し、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫されている。

歌唱分野において、キャラクターの会話の中で身体の成長に配慮した声の出し方を具体的に示したりするなど、歌うために必要な知識・技能に関する発音の図示や姿勢などが掲載され、発達段階に応じて生徒が発声の知識・技能を習得しやすいよう工夫されている。

概ねの題材では、表現及び鑑賞活動を通して、音楽から喚起されるイメージや雰囲気、感じ取った曲想と音楽の構造とを関わらせながら音楽的な見方・考え方を働かせた学習が進められるよう工夫されている。また、巻末の「どんな特徴があるかな？」では、主題からの変奏により、生徒が音楽の変化を聴き取ることで〔共通事項〕の捉え方を考えることができる題材が取り上げられており、工夫されている。

鑑賞領域において、様々な音楽について共通性や固有性を考え、特徴を理解することができるよう、書き込み欄を設けたり、「話し合おう」を設定したりすることに加え、表現領域歌唱分野においては、感じ取った曲想と表現を工夫したい点を記入する欄が設けられている。また、創作分野においては、工夫した点を交流するような手順が示されたりするなど、思考力・判断力・表現力等を身に付けることができるよう、優れた工夫がされている。

さらに、民謡などにみられるコブシや産み字などの旋律装飾、リズムや旋律を表す口唱歌を楽しみながら体験できるようにしたり、それらを民謡譜例などで示したりすることで、生徒が我が国や郷土の伝統音楽に親しみやすいよう配慮されている。

■教育芸術社「中学生の音楽 1」「中学生の音楽 2・3 上」「中学生の音楽 2・3 下」

巻頭ページにおいて、育成すべき資質・能力と、それに対応する学習内容や教材、音楽を形づくっている要素である〔共通事項〕を示すことにより、生徒が曲によって身に付けることができる資質・能力が一目で分かるよう工夫されていることに加え、各題材のページにおいても、「学習目標」「活動文」〔共通事項〕を示し、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう、優れた工夫がされている。

歌唱分野のコーナーにおいて、生徒の発達段階に応じた歌唱表現の工夫とともに、豊かな響きのある声で歌うために必要な知識・技能について掲載されているなど、段階的に技能が身に付くよう配慮されている。

プロの演奏者からのアドバイスや解説をイラストなどを使用しながら紹介するとともに、生徒が学習のねらいに即して試行錯誤しながら表現を工夫する活動が示されているなど、思考力・判断力・表現力等を身に付けることができるよう工夫されている。

歌唱共通教材についてのめあても歌詞や曲想に応じて〔共通事項〕を軸に楽曲ごとに設定されており、生徒が表現を深める学習活動に取り組みやすいうえ、表現及び鑑賞活動を通して、人はなぜ歌い、演奏し、つくるのか、世界にはなぜ多様な音楽が存在するのかなど、「なぜ」という切り口で音楽を捉えられるよう、様々な教材で工夫されており、より幅広い価値観を養うことができる点が優れている。

地域に伝わる郷土芸能について、伝統芸能だけでなく「ユネスコ無形文化遺産」を日本地図上に分かりやすく紹介するとともに、中学生が郷土の祭りや芸能の担い手として活躍している様子を掲載したり、すべての都道府県の郷土の祭りや芸能が紹介されている。また、歌唱分野の題材でも、季節や日本語の美しさなどに触れることができ、これからも歌い継いでいきたい楽曲を「心の歌」として扱うことにより、生徒に伝統や文化を尊重する心や郷土を愛する心を育むことができるよう工夫されており、優れている。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

選定の観点		選定の視点		教育出版	教育芸術社
1	学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識・技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること	1 指導事項(学習のめあてや振り返り活動等)と〔共通事項〕の適切な工夫	○	◎	
		2 楽典や鑑賞資料に関する記述	○	○	
		3 発声や歌い方、楽器に関する記述	○	◎	
2	習得した知識・技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること	1 指導事項と〔共通事項〕の関連	○	◎	
		2 音楽科の特質に応じた言語活動の充実	○	○	
		3 思考力・判断力・表現力の育成に向けた工夫	◎	○	
3	生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすい工夫・配慮がなされていること	1 主体的・対話的な学習に向けた工夫	○	○	
		2 探究意欲を高める工夫	○	◎	
		3 発展的な学習活動につながる工夫	○	○	
4	日常生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けられるよう、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生徒が音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、日常生活や社会、伝統や文化等と関連付けるなど、音楽的な見方・考え方を働かせた活動が適切に取り上げられていること	1 知覚・感受したものと表現及び鑑賞活動との関連	○	○	
		2 音楽的な見方・考え方を働かせやすい教材の充実	○	◎	
		3 音や音楽、言葉による表現活動の充実	○	○	
5	表現及び鑑賞の活動が相互に関連付けられ、音色やリズム、強弱など音楽を形づくる要素などを要として、生徒が音楽の多様性を理解したり、創意工夫しながら音楽を表現することを通して、音楽のよさや美しさを味わい、和楽器を含めた我が国や郷土の伝統音楽や諸外国の音楽文化に親しみ、音楽を愛好する心情、豊かな情操等を育めるよう工夫・配慮がなされていること	1 表現領域と鑑賞領域の適切な関連	○	◎	
		2 我が国の伝統的な音楽や諸外国の音楽に関わる教材の充実	○	◎	
		3 音楽の共通性や固有性の理解を深めるための工夫	○	◎	
6	生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること	1 人権教育の推進	○	○	
		2 道徳教育の推進	○	○	
7	系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること	1 題材構成の系統性・発展性	○	○	
		2 他教科や教育課題等との関連	○	◎	
		3 他校種との接続	○	○	
		4 家庭・地域との連携	○	○	
8	表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすい工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること	1 文字や写真、図表等の適切さ、正確性、使いやすさ	△	○	
		2 ユニバーサルデザインの視点	○	○	
		3 装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫	○	○	
		4 用紙、インク等の環境面への配慮	○	○	

【音楽科（一般）】観点別資料

【選定の観点１】

学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識・技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○巻頭の「学びのユニット」の見開きページに、題材ごとの学習のねらいや、学習する曲や活動、学習を生かして比べる曲、学びを深めるための曲や活動、学びの手がかりとなるヒントをまとめて掲載し、生徒が題材ごとの学習の流れを一目で理解できるよう工夫されている。また、各題材のページにも「学習目標」や音楽を形づくっている要素である〔共通事項〕を示し、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫されている。 ○新出の音符・休符・記号や用語について、各ページ右下の欄に統一して示されており、生徒が視覚的に確認しやすいよう工夫されている。また、巻末に音楽の諸記号等についてまとめられた折り込みページが掲載され、生徒が繰り返し確認することができ、基礎的・基本的な知識・技能が定着しやすいよう工夫されている。 ○歌唱分野「Let's Sing!」のコーナーの「変声と混声合唱」のページにおいて、キャラクターの会話の中で身体の成長に配慮した声の出し方を具体的に示したりするなど、歌うために必要な知識・技能に関する発音の図示や姿勢などが掲載され、発達段階に応じて生徒が発声の知識・技能を習得しやすいよう工夫されている。また、巻末に弦楽アンサンブルの楽器や郷土民謡に用いられる楽器、日本とアジアの箏の比較など、楽器に関して奏法や音色を含め幅広く紹介されており、工夫されている。	○巻頭ページにおいて、育成すべき資質・能力と、それに対応する学習内容や教材、音楽を形づくっている要素である〔共通事項〕を示すことにより、生徒が曲によって身に付けることができる資質・能力が一目で分かるよう工夫されていることに加え、各題材のページにおいても、「学習目標」「活動文」〔共通事項〕を示し、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう、優れた工夫がされている。また、1年間の学びを振り返ることができる「音楽を形づくっている要素」のページでは、〔共通事項〕を文字や記号だけでなく、学習した楽曲のポイントとなるフレーズや音階とともに具体的に示されており、生徒が振り返り活動がしやすいよう、優れた工夫がされている。 ○新出の音符・休符・記号や用語について、各ページ右上に統一して示されるとともに、音楽の諸記号が巻末ページ「音楽の約束」にまとめられていることにより、生徒が繰り返し確認することができ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できるよう工夫されている。 ○歌唱分野の「My Voice!」のコーナーにおいて、生徒の発達段階に応じた歌唱表現の工夫とともに、豊かな響きのある声で歌うために必要な知識・技能について掲載されていたり、他の題材でも発声や歌い方に関する具体的なヒントが掲載されたりすることなどにより、生徒が学びを生かしながら反復的に学習に取り組み、段階的に技能が身に付くよう配慮されている。また、日本の伝統音楽に関する題材を中心に、三味線や尺八など、関連する楽器や演奏時の写真を掲載したりするなど、楽器を関連づけて学習することができるよう、優れた工夫がされている。

【選定の観点2】

習得した知識・技能を活用しながら，生徒が問題発見・解決的な学習，話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み，多面的・多角的に考察しながら，思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○巻頭の「学びのユニット」において，題材ごとに「学びの手がかりとなるヒント」として示されている，〔共通事項〕を中心として，題材と比較する曲や活動及び題材の学びを深めるための曲や活動が示されていることで，題材の学習を通して習得した知識・技能を生かしながら生徒が問題発見・解決的な学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ○鑑賞領域では，「音楽や演奏に対する自分の考えを述べる」「複数の音楽を比べてみてよさや美しさなどを考える」など具体的な活動を提案し，先生役のキャラクターによる「聴き取ったことと感じ取ったことをまとめておこう」などの指示や，「話し合おう」のコーナーにおいて，「よかったところや，それを選んだ理由を発表し，交流しよう」など，活動に関する手立てが示されていることで，生徒が音楽を聴き深めることに加え，言語活動を展開しやすいよう工夫されている。 ○鑑賞領域の「何が同じで，何が違う？」のページにおいて，様々な音楽について共通性や固有性を考え，特徴を理解することができるよう，書き込み欄を設けたり，「話し合おう」を設定したりすることに加え，表現領域歌唱分野においては，「ACTIVE!」のコーナーに，感じ取った曲想と表現を工夫したい点を記入する欄を設けたり，創作分野においては，工夫した点を交流し，それについて記入できるような手順が示されたりするなど，生徒が幅広い音楽活動の中で思考力・判断力・表現力等を身に付けることができるよう，優れた工夫がされている。	○鑑賞領域の「深めよう！音楽」のページにおいて，〔共通事項〕を中心として，習得した知識・技能を活用しながら調べたり考えたりする記述式の問いが設定されていることに加え，「Challenge!!」においては，音楽的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考えたり，話し合ったりする課題設定がなされるなど，生徒の問題発見・課題解決的な学習に有効な手立てとして，優れた工夫がされている。 ○キャラクターの吹き出しにより，学習のポイントやヒントを示したうえで，グループ学習で具体的にどの部分に注目して，どのようなことを話し合えばよいのかを例示することにより，生徒同士の話し合いによる協働的な学びを通して言語活動が充実するよう工夫されている。 ○プロの演奏者からのアドバイスや解説をイラストなどを使用しながら紹介するとともに，言語活動を意識した発問や，どのようなことを考え，活動したらよいのかの工夫例が示されることで，生徒が学習のねらいに即して試行錯誤しながら表現を工夫する中で思考力・判断力・表現力等を身に付けることができるよう工夫されている。

【選定の観点3】

生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○表現及び鑑賞の冒頭に「すすんで学び合おう」のページが配置され、生徒自身が考えたり、感じたりしたことをまとめる活動とともに、「話し合おう」において、自分の表現活動に対する思いや意図を伝えたり、他者の意見を聞く活動を通して、主体的・対話的に学習が進められるよう工夫されている。 ○主要教材に関連して「深めてみよう」の題材が設定されていることで、生徒が学んだことを生かしながら、さらに音楽表現を工夫したり、音楽のよさや美しさを味わって聴くなど、探究意欲を高めるよう工夫されている。また、各学年で取り扱われている鑑賞題材については、巻頭の「作者の思いにふれる」のコーナーにおいて、作曲された当時の背景にまでせまる作曲者の言葉を紹介しており、生徒の探究的な学びの手立てとなるよう工夫されている。 ○巻末に「発展」のページが設定され、第1学年では「音ってなあに？」、第2学年では「音量」、第3学年では「音色と音高」のテーマで、全学年で音の三要素に関する説明を掲載する中で、マイクとスピーカーのしくみや楽器のチューニングとの関連など、日常生活や音楽コンサートなどの事例が紹介されており、生徒が実生活をイメージして活用できるよう工夫されている。	○創作教材において、創作の手順を具体的に示した資料や例が掲載されたり、歌唱教材において、自分の考えを直接書き込めるワークシートや対話の例が掲載されていることに加え、キャラクターのコメントが生徒のイメージを膨らませた聴き方や、演奏の工夫を示したり、他者との対話を促したりする内容となっているなど、主体的・対話的な学習につながるよう工夫されている。 ○作曲家や演奏者などの専門家からのメッセージや指揮者からのアドバイスを掲載することにより、生徒が楽曲への理解を深め、表現するにあたって参考にしながら学習を進められるなど、探究意欲を高めるよう工夫されている。また、巻頭の「音楽ってなんだろう？」のページでは「世界をつなぐもの」「時間とともにあるもの」「声や音にのせて」という切り口で音楽とそれに関わる人物や言葉を美しい写真とともに紹介することで、音楽との向き合い方を示しており、生徒が音楽について新たな発見ができるよう、優れた工夫がされている。 ○「指揮をしてみよう！」のページでは、各学年に応じた具体的な楽曲の提示や指揮の基本と応用のポイントが汎用的に示されており、生徒が音楽の授業以外の場面で活用できるようにするなど、発展的に学習に取り組みやすいよう工夫されている。

【選定の観点4】

日常生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けられるよう、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生徒が音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、日常生活や社会、伝統や文化等と関連付けるなど、音楽的な見方・考え方を働かせた活動が適切に取り上げられていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○巻頭の口絵や歌唱共通教材のページにおいて、歌詞の内容と関連する、我が国の自然や四季の美しさを表現する写真を掲載することで、生徒が歌詞とそこから連想されるイメージを豊かにしながら学習に取り組めるよう工夫されている。 ○概ねの題材では、表現及び鑑賞活動を通して、音楽から喚起されるイメージや雰囲気、感じ取った曲想と音楽の構造とを関わらせながら音楽的な見方・考え方を働かせた学習が進められるよう工夫されている。また、巻末の「どんな特徴があるかな？」では、主題からの変奏により、生徒が音楽の変化を聴き取ることで、〔共通事項〕の捉え方を考えることができる題材が取り上げられており、工夫されている。 ○「私たちのくらしと音楽」で音楽著作権を取り上げ、音楽を守っていくことの価値について考えたり、音楽を通じた教育活動や音楽療法など、音楽表現が持つ力を考える内容を掲載したりすることで、生徒が音や音楽による人と人をつなぐコミュニケーションの意義を幅広く考えることができるよう工夫されている。	○歌唱共通教材の歌詞の背景について、歌詞の内容と関連する写真やイラストを掲載することで、生徒が歌詞とそこから連想されるイメージを豊かにしながら学習に取り組めるよう工夫されている。 ○巻頭口絵の各学年で取り上げられている楽曲に関わる各界の著名なプロフェッショナルからのメッセージが、音楽や芸術と自身との関わりについて、生徒自身の考える力を引き出し、学びに向かう力や音楽的な見方・考え方の育成につながるよう工夫されている。また、歌唱共通教材についてのめあても歌詞や曲想に応じて〔共通事項〕を軸に楽曲ごとに設定されており、生徒が表現を深める学習活動に取り組みやすい。さらに、表現及び鑑賞活動を通して、人はなぜ歌い、演奏し、つくるのか、世界にはなぜ多様な音楽が存在するのかなど、「なぜ」という切り口で音楽を捉えられるよう、様々な教材で工夫されており、より幅広い価値観を養うことができる点が優れている。 ○巻末の特集「生活や社会の中の音楽」において、郷土芸能としての音楽や演奏家が生演奏を聴く機会の少ない人々のところへ出向き、芸術を味わう場を提供するアウトリーチ活動、音楽に関わる仕事の紹介などを通して、生徒が音や音楽に関する表現活動の多様性を考えることができるよう工夫されている。

【選定の観点５】

表現及び鑑賞の活動が相互に関連付けられ、音色やリズム、強弱など音楽を形づくる要素などを要として、生徒が音楽の多様性を理解したり、創意工夫しながら音楽を表現することを通して、音楽のよさや美しさを味わい、和楽器を含めた我が国や郷土の伝統音楽や諸外国の音楽文化に親しみ、音楽を愛好する心情、豊かな情操等を育めるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○箏曲「六段の調」を鑑賞し、学習したことを「Let's Try!」で実際に箏を使って表現するなど、我が国の伝統音楽、郷土の民謡や芸能について、歌唱、器楽、創作、鑑賞のすべての学習を通して扱うことにより、生徒が音楽に対する価値意識を持ち、表現領域と鑑賞領域との関連が図れるよう工夫されている。 ○民謡などにみられるコブシや産み字などの旋律装飾、リズムや旋律を表す口唱歌を楽しみながら体験できるようにしたり、それらを民謡譜例などで示したりすることで、生徒が我が国や郷土の伝統音楽に親しみやすいよう配慮されている。また、「日本の歌・みんなの歌」では、季節や日本語の美しさなどに触れることができる楽曲を扱うことにより、生徒に伝統や文化を尊重する心や郷土を愛する心を育むことができるよう工夫されている。 ○「雅楽とオーケストラ」「歌舞伎と歌劇」「日本の民謡とアジアの民族音楽とドイツの歌曲」のように、我が国と諸外国の音楽との関係性に着目した楽曲が選曲されており、生徒が比較鑑賞することで、我が国と諸外国の共通性と固有性を理解し、音楽の多様性も認識できるよう工夫されている。	○鑑賞教材の一つの雅楽「越天楽」では、箏（ひちりき）の歌唱を歌って旋律の特徴を感じ取る学習や歌舞伎の長唄に実際に唄ったり能の謡を体験したりする学習を通して、我が国の伝統音楽、郷土の民謡や芸能について、口唱歌で歌ったり、リズムを打ったり、楽器の音色から感じ取ったりするなど、表現領域と鑑賞領域の学習活動を関連付けた工夫がされている。また、巻末の「郷土に伝わる民謡を調べよう」では、すべての都道府県の音楽を掲載し、生徒が歌うこと、聴くことどちらの学習活動も行えるよう工夫されており、優れている。 ○地域に伝わる郷土芸能について、伝統芸能だけでなく「ユネスコ無形文化遺産」に指定されているものを日本地図上に分かりやすく紹介するとともに、中学生が郷土の祭りや芸能の担い手として活躍している様子を掲載することにより、生徒が自分の住む地域の文化に親しむことができるよう工夫されている。また、すべての都道府県の郷土の祭りや芸能が紹介され、歌唱分野の題材でも、季節や日本語の美しさなどに触れることができ、これからも歌い継いでいきたい楽曲を「心の歌」として扱うことにより、生徒に伝統と文化を尊重する心や郷土を愛する心を育むことができるよう工夫されており、優れている。 ○「能」「歌舞伎」「文楽」に関する写真や資料を掲載し、共通する演目を比較鑑賞する活動を設定することにより、生徒が得た知識を生かしながらそれぞれのよさを実感し、我が国の伝統芸能の共通性と固有性を理解しやすいよう工夫されている。また、巻末の「アジアの諸民族の音楽」では、日本の伝統音楽や郷土の芸能と聴き比べる教材が紹介されていたり、「世界の諸民族の音楽」では、声の表現に特徴を持つ音楽、特徴的な楽器の音楽が各学年で取り上げられるなど、生徒が共通性や固有性を理解し、音楽の多様性も認識できるよう工夫されており、優れている。

【選定の観点6】

生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道德性を身に付けられるよう、人権教育や道德教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○SDG s との関連として、男女平等にたった合唱活動への配慮や多様な国や地域の音楽文化を尊重した編集となっているとともに、平和や公正を訴える歌詞がある教材を取り上げるなど、人権教育の視点に立った工夫がされている。また、音楽著作権について、音楽文化の継承や、発展、創造を支えていることへの理解を促すよう具体的な事例を挙げて説明しており、生徒が著作者の人権を考え、守る意識が育成できるよう工夫されている。 ○我が国の自然や文化、日本語の美しさを感じ取ることができる楽曲や、巻末に「国歌」を歌詞の大意とともに掲載することなどにより、生徒の我が国の音楽文化への理解促進や、音楽を愛好する心情、美しいものや崇高なものを尊重する態度の育成など、道德教育との関連を重視して学習が進められるよう工夫されている。	○多様な国の多様な音楽を掲載することにより、生徒の他者や他国を尊重する姿勢を育み、多文化共生を視点として人権意識の高揚につながるよう工夫されている。また、身近な「音楽のダウンロード」を例に、音楽に関する知的財産権について、漫画を交えながら親しみやすく解説されており、生徒が作り手の守られるべき権利について自分事として理解しやすいよう工夫されている。 ○巻末の「心通う合唱」に掲載されている合唱曲についての協働的学習において、生徒が自分自身の良さや可能性を認識して個性を生かしながら他者を価値ある存在として尊重する姿勢を育むことができるよう工夫されている。また、巻末に「国歌」を歌詞の大意とともに掲載するとともに、同じページの「国歌・国旗と国際的礼儀」のコラムでは、オリンピックやワールドカップの様子が紹介され、国際理解の視点からも道德教育を推進できるよう工夫されている。

【選定の観点 7】

系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○表現分野の「うたう」「つくる」と鑑賞分野の「きく」のバランスに配慮されている。特に歌唱分野において、生徒の発達段階を踏まえ、斉唱から混声合唱へスムーズに進めるよう、中学校3年間を通じた系統性や発展性を踏まえた学習展開ができるよう工夫されている。 ○歌唱共通教材における七五調の歌詞や短歌・俳句との関係、歌舞伎や狂言を取り扱ったり、「カントリーロード」「Top of the world」では歌詞が原語で掲載されたりするなど、他教科の学習内容と関連が図られるよう工夫されている。また、クラシック音楽を取り扱った題材では、音楽史の年表と日本の歴史の年表が示され、歴史的背景と音楽を関わらせて学習することができるよう工夫されている。 ○第1学年のすべての題材で、小学校高学年との領域・分野ごとの系統を意識した教材・楽曲が選択されるとともに、中学校3年間を見通した構成とすることにより、生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。 ○随所に掲載されている「日本の歌・みんなの歌」では、これまでわが国の伝統音楽として親しまれてきた教材が歌詞にゆかりのある土地の写真とともに掲載され、生徒が地域を想起して学習することができるよう工夫されている。	○学年を通して学習が段階的に進められるように、また生徒の音域や変声期などの心身の発達段階を考慮して音域や難易度が上下の学年の学習とスムーズにつながるよう、中学校3年間を通じた系統性や発展性を踏まえた学習展開ができるよう工夫されている。 ○歌唱共通教材における七五調の歌詞や短歌・俳句との関係、歌舞伎や狂言を取り扱ったり、「Edelweiss」や「Let it be」では原語の歌詞を掲載したりするなど、他教科の学習内容と関連が図られている。また、郷土の様々な民謡のページでは日本地図に各地の民謡が配置されて示されており、生徒が地理的背景と音楽を関わらせて学習することができたり、クラシック音楽を取り扱った題材では、音楽史の年表と日本の歴史の年表が示され、歴史的背景と音楽を関わらせて学習することができるよう工夫されており、優れている。 ○すべての教材で小学校との領域・分野ごとの系統性を意識して、生徒の発達段階に応じた教材・楽曲が掲載されている。また、中学校3年間を見通し、発達段階に応じて段階的に学習できるよう工夫されている。 ○中学生が受け継ぐ郷土の祭りや芸能を紹介したり、「社会を映し出す音楽」のページやポピュラー音楽を紹介したページでは、世代を超えて親しまれてきた音楽を国内外問わず紹介することで、生徒が地域の人と音楽のつながりや家族も含めた音楽とのつながりを意識して学習できるよう工夫されている。

【選定の観点 8】

表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○歌詞を掲載する際は、写真の無地の部分に配置するなど、レイアウト、表現方法、色使いが工夫されており、生徒が読みやすいよう配慮されているが、フレーズの途中で楽譜をめくる必要があるなど、音楽のまとまりが見渡しにくい配置となっている楽譜もあり、生徒にとってやや不便である。 ○生徒の特性に応じて判別しやすい配色であるカラーユニバーサルデザインや、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォント（UD書体）が使用され、生徒が学びやすいよう工夫されている。 ○製本は堅牢で、長期間の使用に耐えられるよう工夫されている。 ○環境に配慮した再生紙・植物油インキが使用されている。	○歌詞を掲載する際は、写真の無地の部分に白文字で配置したり、学習活動文の配置を工夫するなど、生徒にとって見やすく、わかりやすくなるよう配慮されている。また、フレーズのまとまりが見渡せるように楽譜を配置するなど、生徒が見通しを持って学習活動が進められるよう工夫されている。 ○色覚の専門家から助言を得て、学習に必要な情報が色の違いのみに依存しないような配色や、生徒の色覚特性に配慮した配色がなされるとともに、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォント（UD書体）が使用され、生徒が学びやすいよう工夫されている。 ○製本は堅牢で、開きがよく、耐久性に優れた製本とするなど、長期間の使用に耐えられるよう工夫されている。 ○環境に配慮した再生紙・植物油インキが使用されている。